

小田原高校に取材に行っただけではありません

キャリアガイダンス実施に向け、私たち光陵会としてもこの取り組みに全面的に協力していくこととしました。そこで、このような活動に早くから取り組んでいる小田原高校を訪問し、担当の神戸（かんべ）先生に色々とお話を伺いました。

取材にあたったのは、36期 井河鷹介と佐藤愛美です。

井河・佐藤（以下 井）：キャリアガイダンスを行うにあたって、やはり講師集めには苦労されたのでは？

神戸先生（以下 神）：そうですね。私も当初は本当に参加者が集まるのか不安でした。しかし、同窓会報やホームページを通じて同窓生などをお願いした結果、予想以上の参加をいただけました。大変ありがたい事です。

井：キャリアガイダンスを行って、生徒達の反響はいかがでしたか？

神：大多数の生徒は良かったです。“もやもやしていたものが晴れた”、“夢に向かって頑張ろうと思えた”などの感想が多いですね。中には講師の方のお話に感激し、終わった後個人的にメールを打つという生徒もいました。

井：生徒からのメールを受け取った講師の方はとても嬉しいでしょうね。

神：ええ、そうなんです。生徒のメールでまた講師の方も感激し、キャリアガイダンスに参加してよかったと思って下さるようです。また、キャリアガイダンス終了後に生徒達にアンケートを取り、講師の方々にお渡ししています。それを読んだ講師の方々は、自分の存在意義を感じ、自分の持っているモノをもっと生徒にぶつきたい！と思うみたいです。それがまた次回に繋がっていくのだと思います。結果的には、講師は生徒から元気を貰っているんです。

井：キャリアガイダンスは生徒だけでなく、講師の方々にも大きな影響を与えているんですね。

神：その通りです。前回のキャリアガイダンスでは、わざわざ名古屋から飛行機で来てくださった講師の方もいらっしゃいました。もちろん交通費は自腹で…。私は、このキャリアガイダンスが何かのきっかけ作りになってもらえれば良いな、と思っています。生徒達に、「人生って面白いじゃん！」と感じてもらえれば最高ですよ。

井：この「先輩助っ人バンク」を利用した、更なる発展を考えていますか？

神：目的は『つながり』です。「愛校心」、そのエネルギーが集まったとき、暖かい気持ちで見守っていてくれたらそれが新しい『つながり』になっていくのです。『つながり』は財産です。ただの講演会だけでは終わらせません。まあ、今はまだ秘密ですけどね（笑）。



↑ 快く取材に応じてくださった
神戸先生(右) 左は光陵会・井河